第２回　酒田市総合計画審議会 議事要旨

１．日時

平成２８年7月２１日（木）１３：３０～１５：３５

２．場所

酒田市民会館　希望ホール　小ホール

３．出席者

【酒田市総合計画審議会委員】

酒田市自治会連合会連絡協議会会長	伊藤　則義
酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴　　勝
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	工藤　吉郎
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤　文之
平田地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	阿蘓　　勝
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤　キク
酒田商工会議所副会頭	吉川　哲央
酒田ふれあい商工会会長	富樫　秀克
酒田市袖浦農業協同組合代表理事組合長	五十嵐　良弥
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部　秀徳
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部　直善
酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤　初子
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上　淳子
酒田飽海ＰＴＡ連合会母親委員会会長	小山　敏子
特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐　晃子
特定非営利活動法人元気王国理事長	佐藤　香奈子
東北公益文科大学学長	吉村　　昇
東北公益文科大学教授	武田　真理子

【事務局（酒田市）】

副市長、企画振興部長、地方創生調整監、政策推進課長補佐

４．議事内容

○副市長あいさつ

・総合計画は、市の最上位の計画。法律に定めは無いが、概ねどの市町村も策定している。
一般に、総合計画については次の２つの欠点が指摘されることが多い。
①策定されても実行に移されない。絵に描いた餅になっている。
②市民と共有されておらず、市民の意識と乖離している。
・①については、行政が責任をもって着実に実行していきたい。
・②については、この審議会に加えて、１００人が参加する総合計画未来会議を設置したところ。第１回目は大変好評であった。総合計画の内容は、行政だけで実行できるものでは無いことから、行政や市民の役割分担についても入れ込んでいきたいと考えている。
・加えて酒田市においては、東北公益文科大学との連携が特徴。未来会議や市民大学等で連携しながら策定を進めたい。
・今回は報告事項が２つある。１つは酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略。総合計画の重点プロジェクトのようなものと言ってもよいかもしれない。当然これから策定する総合計画にも反映していく。特に、本市の人口ビジョンについて、委員の皆様と認識を共有したいと考えている。もう１つは未来会議でどういったことが話し合われたか。
委員の皆様からの忌憚の無いご意見をお願いしたい。

○報告

・資料に沿って事務局より下記について説明。
(1)「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
(2)「第1回未来会議」について

○報告事項についての質疑・意見等

・【総合戦略】災害時の避難体制の強化が挙げられているが、自分が住んでいる地域では、１次避難所の収容可能人数が全く足りていない。また、冬はグラウンドの除雪も必要。各学区において対応しなければならない。民間所有地の　活用も視野に入れるべき。
・【総合戦略】ボランティア活動については、高齢化が進み、担い手が不足している状況。高齢者が活躍しやすい環境を整えるための支援を。
・【総合戦略】酒田港の活用に向け、道路整備等、太平洋側とのアクセスに関する内容が入っていないのはなぜか。
⇒（事務局）総合戦略はソフト中心の内容であることから。総合計画にはきちんと入れ込んでいく。
・【総合戦略】若者定着のためには、企業誘致も大切だが、介護・保育職の待遇改善が有効と考える。
・【総合戦略】駅前再開発のみならず、商店街の賑やかさが必要。
・【総合戦略】来年、酒田港に外航クルーズ船が来ることが報道された。せっかく来て

も酒田に留まらず、通過されることのないよう準備を進めていくべき。

・【総合戦略】既存企業に対しても働きかけをしていくことが重要ではないか。

・【未来会議】土日開催であることから、部活がある学生は参加できない。学校単位で開催できれば良いのではないか。

・【総合戦略】グリーンツーリズムについて、今年度から、田園調布学園ファームステイが全市での取組みとなった。将来的に酒田を訪れてくれる可能性もあることから、ぜひ今後とも力を入れていくべき。

〇意見交換

テ ー マ：「今後10年間を見すえて、重要と考える視点や取組み」について

・東京圏への一極集中が進んでいるわけだが、東京圏は通勤時間も長い等、決して住みよいとは思わない。行政機関の地方移転は重要な視点。

「住みやすいまち」イコール「人が増えるまち」ではないし、「観光したいまち」が「住みやすいまち」というわけでもない。少子化対策と観光対策は異なるものであり、少子化対策には企業誘致が必要である。企業誘致にかかる税制の優遇措置を検討すべき。港湾地区での危険物倉庫設置基準の緩和なども考えられる。

また、毎年、「産業フェア」が実施されているが、年々参加者が増えていて人気がある。高校生の定着を考えるのであれば、小学生のときから地元にどんな企業があるのかを特に保護者世代に対し周知していくことが必要。

・人口減少・少子高齢化が進む中で「高参加・高福祉」という考え方がある。みんなに出番があって、一人一人が発信できる風通しが良いまちを目指すべき。男女問わず、行政・産業界など多様な主体が協同し、ワークライフバランスを実現していくことが必要。このような意思決定の場や地域活動に、働きながらも若い人たちが参加できるようなまちになれば、イキイキとした酒田市を発信することができるのではないか。

とにかく、民が元気でないと、まちは死んでしまう。生活の安定は必要だが、ワークライフバランスが実現できるまちであれば、様々な地域課題の解決にもつながるものと考えている。「誇りの空洞化」が進んでいるとも言われる今の保護者世代が課題。前向きで風通しよく、みんなが元気でいられるまちを目指していきたい。

⇒山形県は三世代同居率が全国１位。ワークライフバランスもそこと掛け合わせていけば良いかもしれない。

⇒山形県は全国１位だが、酒田市は県内でも低い方で都市型ともいえる。酒田の特性を活かして考えていけば良いと思う。

・全て市がやるのではなく、社会福祉協議会、地元住民など様々な主体が、地域（コミ振単位）で支え合い、助け合いの仕組みをつくること、そしてそれが連鎖する環境をつくることが必要。助け合い・支え合いの仕組みは一律のものではなく、それぞれの地域で必要とするものを考えていくべき。現在、高齢者のみの世帯が全世帯数の２割弱、人口で言えば１割強となっている。また、今後、平成３１年前後に６５歳以上の

人口がピークを迎え、その後、団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年を迎えることとなる。介護や福祉の制度上のサービスに頼るだけでは、住み慣れた地域で暮らしていくことができなくなるだろう。制度の狭間、制度に引っかからない人たちをフォローする仕組みを作らなければならない。

このようなことを地域で展開していくことにより、地域はイキイキとしてくるし、ヒトがその活動に携わることによって、地域と交わり、関係が形成され、「人財」となっていく。それが外からみえることにより、移住や日本版生涯活躍のまちの展開にも繋がっていくのではないか。自立した市民が増えることによって、市政に参画する市民も増えていくものと考える。

支え合い・助け合いの仕組みは、高齢福祉だけではなく、子育て支援、障がい福祉、生涯学習にも通じる視点である。ボランティア活動、地域活動と交わることによって、福祉力の高い地域になっていくのではないか。

また、避難所開設・運営訓練は、待った無しで取り組むべき。市がきっかけをつくり、市民組織、自主防災組織が取り組んでいくということが大事。

・農業は過渡期に差し掛かっている。現在、団塊の世代が担い手となっているが、後継者がいない農家が１０年後には２/３にのぼることとなり、農地が余ってしまう。労働力が足りないことから、法の問題もあるが、外国人の労働力があっても良いのではないかと考える。日本の農業は家族型経営。大陸型の大規模経営ではない。家族型農業を維持していくことが、産業の維持、人口減少の歯止めにもなるものと考える。

・出生率を上げるためには、企業誘致も大切だが、地元で頑張っている企業が、しっかりと体力をつけ、親となる若年層の待遇を良くしていくことが　必要である。

また、高速道路のミッシングリンクもあり、酒田港へのアクセスが良くないことが産業界の足を引っ張っているのではないか。

・人口の社会増減をみると、転出超過傾向が続いている。かつては3,000人規模の雇用があった工場が撤退したこともある。加えて全国的な産業構造の変化などもあり、酒田には良質な雇用が少なくなったものと考える。良質な雇用は、やはり製造業から生じる。酒田は製造業が非常に弱いと思うので、今後総合計画のフレームが組まれていくものと思うが、意識して頂きたい。

・最近は酒田に働き手が少ないということを強く感じる。酒田で働くということは、東京の大企業で働くよりも、地域の一員として、まちづくりに参画していくことができるという点が魅力だと考える。仕事だけでない、自分の居場所を寛大に認める地域となればよいのではないか。自分の仕事以外でも自分の存在を発揮できる活動に対し、ダブルワークと言わずに報酬を認めていくということも必要だと思う。

・中山間地域においては、農家の高齢化が進み、耕作放棄地が増えていく。後継者を確保しなければならない。また、林業については、木材価格の値下がりが続き、現状、稼げる産業とは言えない。地域産材の供給を拡大していくべきと考えるが、そのためにも林道整備をきちんと進めていく必要がある。